

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

第18回定時株主総会 質疑応答要旨

【株主 A 様ご質問】

3つの事業についての説明があったが、今後の業績につながる事業、ストックビジネスにつながる事業がどれだけあるのか教えてほしい

【ご回答】

これまでゲーム機向けの IP ライセンス事業を中心にビジネスを展開しており、これからも事業として継続してまいります。今後、AI に関連するハードウェアプロセッサIP またはソフトウェアライセンスの収入、これらに伴うランニングロイヤリティ収入、例えば安全運転支援システムやカメラ、テレビ等のコンシューマー製品向け AI のライセンス、ロイヤリティが、ある程度安定的な収入につながると考えています。また、RS1 の販売についても昨年より順調に量産出荷しており、今後も出荷が続く見込みであるため、ストックビジネスとは意味合いが違いますが、こちらも継続的な収益につながると考えています（山本）

【株主 B 様ご質問】

ロボティック・ビークル分野での競合他社はどこになるのか。また、当社は競合他社に比べてこの分野でどのような優位性があるのか

【ご回答】

当社の競合は、例えば自動運転で先行している米国半導体メーカー製のものを中心とした汎用 SoC と考えています。ただ、これらのチップは汎用的であり、特定の分野に最適化、カスタマイズすることを前提としていません。一方、当社のチップはお客様の要望に従って特定の分野に特化し、電力やコストを最適化して作りこんだ製品であるため、この点が差別化要因となると考えています。また、お客様への手厚い技術サポートを通じて得られた情報を学習し、さらに最適化することができる点も当社の強みと考えています（山本）

【株主 C 様ご質問】

ヤマハ発動機様と協業している農業用収穫機械とはどのようなものなのか

【ご回答】

現在開発中のため、詳しい回答は控えますが、様々な農作物に対応できるものになるのではないかと考えています（山本）

【株主 D 様ご質問】

事業面および経営数値面での中期計画をお伺いしたい

【ご回答】

新型コロナウイルスの影響もあり、現段階では具体的な数値はお答えできませんが、2点ポイントがあると考えています。アミューズメント向け製品の販売を中心とした既存事業の強化と、成長分野としての AI 関連のライセンスとサービスの拡大です。前期の売上高の比率では、製品販売が約5億5千万円、AI 関連が4億円強ですが、今後は AI 関連がさらに伸びていくと考えています。中期計画については、現状を精査したうえで開示できる段階になれば速やかに開示したいと考えています（山本）

以上